

本誌「上肢・手の機能と作業療法—子どもから大人まで」は、地域包括ケアを基軸に、①今後、作業療法の対象が子どもから大人まで拡大していくこと、②ICF 評価と生活行為向上マネジメントを基本方針に医療専門職として専門性を発揮し、地域の福祉・教育・労働分野と連携できること、を目指して企画しました。

第1章「上肢・手の機能と作業療法」では、上肢・手の機能的役割を理解することを目的とし、上肢・手の機能的構造（解剖学・運動学的要素）や中枢システム（脳の機能局在・下行路システム・運動学習等）、上肢・手の機能に影響を与える対人コミュニケーション、さらには最新の福祉用具やロボット技術の現状、上肢・手の作業療法介入に有効となる評価と臨床的意義について解説しています。

第2章「上肢・手の実用的機能向上—各手技・手法の考え方と具体的実践」では、上肢・手の実用的機能向上に向けた各手技や手法の最新知識とともに、それぞれにおける代表的事例の紹介と介入ポイント、治療効果を含めた実践報告を紹介しています。

第3章「疾患別 上肢・手の困難事例へのアプローチ—具体的介入例とポイント」では、各疾患における上肢・手の機能について知っておくべき知識と陥りやすい反応（形態等）を踏まえ、作業療法介入の原則とともに生活に反映するまでの過程を含めた困難事例への実践報告を紹介しています。

前述したように、地域包括ケアの導入とともに作業療法の対象が多岐にわたる中、身体、精神、発達、教育の分野を超えて、あらゆる対象者に対応できる人材が求められています。私たち OT が上肢・手の治療のプロフェッショナルとして、その機能を多角的な視点から理解し、作業療法介入が疾病による「機能障害」の改善にとどまらず「生活機能」の獲得と再建に貢献できることが望まれます。

OT に対する期待は、地域包括ケアにおいて今後ますます増していくことが予想されます。しかし一方で、生活に直結した多様なニーズに応えることは、経験の少ない、または、経験したことのない相談事例に直面する OT にとっては、大きな責任とプレッシャーを抱えることになります。そのようなとき、本号が問題解決を進めていくための考え方を導くひとつの手段となることでしょう。

子どもから大人へ、そして地域生活と医療をシームレスにつないでいく役割を OT が担うこと、を共通目標として、各分野でご活躍されている多くの皆様にご執筆いただきました。この場をお借りしまして深く感謝申し上げます。

2017 年 7 月

編者を代表して

小児領域担当（大阪発達総合療育センター） 辻 薫
成人領域担当（山梨リハビリテーション病院） 広田真由美